

セッション 3－ハンズオンスクリプト

■データベースの作成

まずは、現在のデータベースの一覧を見ておきましょう。

```
show databases;
```

こちらのコマンドで現在のデータベース一覧が確認できます。

左上に雷ボタンがあります。

一番左のボタンは、書いたコマンド全てを実行する役割があります。

その右側にある雷ボタンは、カーソル状にあるコマンドを実行します。

今回は右側を押します。

実行すると My SQL が既存で用意した管理用のデータベースがあることがわかります。

次に

```
create database art_data;
```

とコマンドを打ってもらいでデータベースを作ってみます。

この際に、大文字でも問題なく実行できますが、注意が必要です。

プロジェクト内のルールを決めてそれを遵守することをお勧めします。

それでは実行してみます。

正常に実行できたことを確認して、

再び、

```
show databases;
```

コマンドで見ると、先ほど追加した

art_data が追加されていることがわかります。

■ テーブルの追加

カラムは以下の

```
id,  
name,  
category
```

の三つとしておきましょう。

【補足】よく利用するオプションについて

- ・NULL を禁止する場合、オプション部分に「not null」を利用します。
- ・自動採番する場合、「auto_increment」を利用します。
- ・キー（主キー、プライマリキー）を設定する場合、オプション部分に「primary key」を追記します。

それでは実際に動かしていきましょう。

まずは Use コマンドを使って、データベースを指定します。

```
show tables;
```

で現在のテーブル一覧を確認してみましょう。

まだ何もテーブルがありません。

それではテーブルを作成していきます。作家情報を管理する artist テーブルを作成してみます。

下記のコマンドを入力します。

```
CREATE TABLE artist(id int not null auto_increment primary key, name varchar(255) not null, category varchar(255))
```

id は int 型

オプションには、null の入力を許容しない、「not null」オプションを。

さらに、自動採番をするように、「auto_increment」を利用します。

そして最後に、主キーを表す「primary key」を記載します。

次に、name を。

同様に「not null」オプションを利用します。

最後に、カテゴリ名。これは、ルネサンスや現代アートなどの絵画のジャンルが入るカラムです。

構文通り記載して実行してみましょう。

実行できました。

```
show tables;
```

で現在のテーブル一覧を確認してみましょう。

すると先ほど作ったテーブルが作成されていることを確認できます

■テーブルの削除

まず現在のテーブル一覧を確認しておきましょう。

```
show tables;
```

実行します

artist table が存在していることが確認できます。

確認できたところで、先ほどの構文を打って実行してみましょう。

```
drop table artist;
```

エラーなく実行できました。テーブル一覧を確認します

```
show tables;
```

artist テーブルが削除されていることが確認できました。

このレクチャーでは、テーブルの削除について学びました。

■データベースの削除

まずは、現在のデータベースの一覧を見ておきましょう。

```
show databases;
```

現在のデータベース一覧が確認できます。

すると、art_data というデータベースがあることを確認できます。

ここから、

```
drop database art_data;
```

のコマンドでデータベースを削除していきます。

それでは実行してみます。

正常に実行できたことを確認して、

再び、

```
show databases;
```

コマンドで見ると、

art_data が削除されていることがわかります。